

号外

本号では、令和4年10月26日に京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにて実施した、ウクライナ学生歓迎セレモニーの様子をご紹介します。

ウクライナ学生歓迎セレモニーを実施しました

京都大学では、ウクライナの危機的状況が続くなかで、4月6日付け湊長博総長名の「ウクライナからの学生受入れについて」に基づき、本学の学術交流協定校である、キーウ工科大学及びタラス・シェフチェンコ記念キーウ国立大学からの学生受入れを表明しており、今回のセレモニーには受け入れを決定している18名のうち、すでに来日している14名の学生が出席しました。

本学からは湊長博総長、稲垣恭子理事・副学長（男女共同参画、国際、渉外（基金・同窓会）担当）、平島崇男理事・副学長（教育、学生担当）らに加え、現在留学生ラウンジ「きずな」で支援スタッフとして雇用されている元本学留学生のウクライナ人スタッフと、現在経営管理大学院に在籍中のウクライナ人留学生も出席しました。

セレモニー終了後は、受入れ学生と湊総長らとの懇談会が行われ、クラブやサークル活動をはじめとする本学の学生生活や、セレモニーで身に付けていたウクライナの民族衣装などについて笑顔で話す姿が見られました。

本学で受け入れたウクライナ学生に対しては、本学の「ウク

ライナ危機支援基金」に多方面から多くのご協力をいただいたことにより、日本への渡航費用だけでなく毎月の生活費支援の実施が可能となりました。併せて、株式会社学生情報センターより学生用住宅を無償提供いただいております。受け入れた学生が安心して生活できる環境が整っています。学内でのサポートについても、学修面では各学生に学修指導等を行うメンター教員を付けるとともに、学生が英語による授業の履修だけでなく、日本語の学修もできるよう、学生のレベルに応じたクラスを提供しています。また、メンタル面では、学生チューターや担当職員を増員することで、日々の相談や手続等のサポートを行っており、留学生相談室の体制を強化して充実を図っています。今後も、両面で学生が安心して本学で学修が継続できるようにサポートを行います。

なお、今回の歓迎セレモニーの様子は、報道各社にも公開されました。

●京都大学「ウクライナ危機支援基金」へのご協力をお願いします。

<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/ukraine/>



湊長博 総長からのメッセージ

危機的な状況が続く中、ウクライナから18名の学生を京都大学に招くことができたことを嬉しく思います。残念ながら4名の学生はまだウクライナの国境を越えることができていませんが、一日も早く全員が来られることを強く願っています。



今日、私たちの世界は多くの複雑な問題や課題に直面していますが、このような状況であるからこそ、如何なるものも、若者たちが本来持っている「学びたい」「発見したい」という情熱を邪魔することはできない、と私は信じています。「自由の学風」を基本理念とし、その長い歴史をとおり、日本で最も高い研究成果をあげてきた京都大学が、皆さんの熱意と希望に応え、学びの機会を保障することは、大事な責務であると考えています。

私たちは、皆さんが本学に滞在している間、快適で楽しい環境で勉学に専念できるよう、あらゆるサポートを行います。しかし、勉学だけではなく、同時に日本での生活を楽しみ、日本の言葉や文化を学ぶ時間も大切にしてほしいと思います。1,200年の歴史を持ち、日本の文化の中心地である京都は、その場所として最適です。そして、本学で学ぶ、日本の学生たち、世界各国の学生たちと交流を深め、多くの友人を作ってください。

稲垣恭子 理事・副学長からのメッセージ

この8ヶ月間、皆さんは我々の想像を絶する多くの苦難に直面したことと思います。

初めて日本に来られる方も多く、環境や生活に不慣れな点もあると思いますが、京都大学ができる限りお手伝いしますので、安心してください。そして、何か困ったことがあれば、遠慮なく私たちに相談してください。

皆さんひとり一人にメンターやアカデミックアドバイザーが付き、学習をサポートします。英語での授業はもちろん、日本語の授業も受けられます。

また、留学生ラウンジ「きずな」を大いに活用してください。



「きずな」は、落ち着いた雰囲気の中で、留学生の学習や日常生活のサポートを行う施設です。英語を話せる専任スタッフやウクライナ人スタッフ、学生チューターやアドバイザーが常駐しています。

皆さんが本学で楽しく、実りある時間を過ごせることを願っています。

ウクライナ学生2名の挨拶



ウクライナからの留学生受入れに関わるすべての人々に感謝の意を表します。

京都大学の理念を知ったとき、学問の自由と自主、そして学問的アプローチにおける自立と自尊について、私は同じ価値観を共有していることに気づきました。京都

大学が学生や世界に与える影響力に感銘を受け、その一翼を担えることを嬉しく思っています。

本格的な攻撃が始まって245日、クリミア併合から3,171日、いつまで続くのか、またどこまで悪くなるのか、誰にもわかりません。どうか、「まだ終わっていない」「まだ支援が必要である」ということを忘れないでください。

今日、私はこの場をお借りして、すべての人々に感謝したいと思います。特に、京都大学、京都市、そして日本の皆さん、このような困難な状況の中でウクライナを支えてくれてありがとうございます。

2月24日以降、すべてのウクライナ人の生活は大きく変わりました。

安全なこの場所でも、友人や家族が無事かどうかという、たった一つの疑問で目覚め、眠りにつくのです。しかし、他国、特に日本からの貴重な援助がなければ、今のウクライナはありません。

日本が差し伸べてくれた支援の手を、ウクライナはずっと忘れないと約束します。戦後も、ウクライナと日本の友情の絆が、このように緊密であり続けることを願っています。



英語で話されたメッセージ・挨拶を日本語に翻訳して掲載しています。



<https://www.kugd.k.kyoto-u.ac.jp/>



<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>



お問い合わせ

京都大学国際・共通教育推進部企画掛 〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町
Mail: graduate_studies_office@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp